

【企画シンポジウム】

「毒性研究モデル生物“メダカ”の未来について考える」

司会：柏田祥策（東洋大学）

総括：鑪迫典久（国立環境研究所）

メダカ (*Oryzias latipes*) は、化学物質の安全性試験のための試験魚として OECD テストガイドガイドライン等においても推奨されるなど、MEDAKA として広く世界的に使用されております。最近、朝井、細谷、酒泉らの御研究によって、日本に生息しているメダカに、キタノメダカ (*O. sakaizumii*) が追加され、これまでのメダカがミナミメダカ (*Oryzias latipes*) として分類されました。我々は従来、いわゆるヒメダカを試験生物として使用しておりましたが、今回メダカが 2 種に分類されたことで、その分類そのものに対する科学的異論やこれまでの毒性データの整合性などについて、学術上また環境政策上で混乱が生じております。

そこで、最近のメダカ分類研究に対して理解を深めるために以下のような内容で企画シンポジウム「毒性研究モデル実験生物「メダカ」の未来について考える」を開催いたします。皆様のご参集をお待ちしております。

日時：9 月 3 日（木）13:30-16:20

会場：A 会場（6309 教室）

プログラム

1. メダカの系統

酒泉 満（新潟大学）

2. キタノメダカとミナミメダカの分類

朝井 俊亘（京都産業大学附属中学校・高等学校／近畿大学）

3. 新種としてのキタノメダカへの異論

尾田正二（東京大学）

4. メダカ地理的変異系統を用いた予備的毒性研究

柏田祥策（東洋大学）

5. 化学物質管理のためのメダカ・バイオアッセイ

鑪迫典久（国立環境研究所）

6. 化審法あるいは OECD-TG における法制上の問題点

高橋亮介（環境省）